

令和7年度総合教育会議 会議録（要旨）

- 開催日時 令和7年6月2日（月）午後10時30分～11時00分
- 開催場所 本庁舎2階会議室
- 出席者 藤原淳（市長）、加藤暢之（教育長）、荒谷直大（教育委員）、阿部歩（教育委員）、佐々木千穂（教育委員）、菅原佳子（教育委員）
- 事務局職員 立花幸博（教育部長）、長畑宏範（副部長兼教育企画課長）、桂康博（学校教育企画監）、千葉守（総務部長）、横館英昭（総合政策課長）、大平隆義（教育企画課教育施設係長）、小保内綾子（教育企画課主査兼教育企画係長）、五日市知之（教育企画課学校教育主査）

1 開 会

（立花教育部長）

それでは、皆さまお揃いとなりましたので、只今から令和7年度第1回二戸市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めます、教育部の立花でございます。

本日の会議は、市長部局から、千葉総務部長と横館総合政策課長が同席しております。教育委員会事務局からは、長畑副部長兼教育企画課長、桂学校教育企画監が出席しております。また、教育企画課から小保内教育企画係長、大平教育施設係長、五日市学校教育主査が同席しております。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

はじめに、藤原市長から、あいさつをお願いいたします。

2 あいさつ

（藤原市長）

皆さんおはようございます。大変お忙しい中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。また、日ごろ市内の教育にご尽力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、金田一小学校の学校歯科保健功労内閣大臣表彰、これは菅原先生が取り組まれてきたことで表彰を受けたものと思います。本当にありがとうございます。それから、福岡中学校の軟式野球大会等の活躍、高田啓介さんが「海の沈黙」で、倉本聰さんの映画の中のすべての絵画を担当したということで、これもすべて日展の特別表彰を受けたというようなことから、大変この地の文化度の高さが分かるなというようなこともありました。

それから、今年に入りまして、1月に九戸城で南部サミット、こちらは10市町で構成されており、青森県が4つで八戸、七戸、南部、三戸、岩手県も4つで二戸、盛岡、宮古、遠野、それから山梨県の南部と身延と集まってやっているわけですがけれども、南部家の第46代当主 南部利文公をお迎えいたしましてここでサミットを開いたわけでございます。

南部の歴史を活かしたまちづくりをしていくためには必要であって、これで文化等の厚さ

や幅を広げるわけでございますけれども、南部の殿様が「二戸市というのは文化度が高い」ということをごあいさつの中でおっしゃっていただきまして、誇り高いといいますが、自慢になったなというところでございます。

一方で、人口がどんどん減っております、特にこの県北地域が他の地域に比べて減少が進んでおまして、これをなんとかしなければならぬというのが課題であります、人口減少を止めることはできないと思っております。

全国どこの自治体もそうですけれども、いかに緩やかにもっていけるか、あるいは人口が減っていく中でもその地域が元気にまちづくりを進めていくためにはどうすればいいのかというのが我々行政に課せられた課題なのかなと思っております。

今、お陰様で、金田一地区につきましてはカダルテラスがオープンして3年目、今度4年目に入るわけでございますが、来年が開湯400年というのを迎えますし、九戸城等につきましては、本丸、二の丸の方もある程度整備して、裁判所が今、スポーツセンターの向いの方に建っておりますので、そこに移して、これからになると思っておりますけれども、皆様のご意見等集約しながら、長嶺の歴史民俗資料館を裁判所の跡地の処にもってきて、当該エリア全体を歴史の見えるようなところに持っていければと思っております。

それから、田中館愛橋ゆかりの家が稲荷山の向いのところにこれから整備しようというところになっておりますが、宝くじも当たりまして、1/3が市で、2/3が公民館のようなところになると。私はそれで終わりではなく、むしろ始まりだと思っております。と申しますのは、あそこの処には素晴らしい宝物といいますが、他にまねのできないものが沢山ありまして、達増知事が講演の中でも、明治維新は相馬大作で始まり原敬で終わったというような（ことをおっしゃっていましたが）、あそこの向いには槻蔭舎もございますし、稲荷文庫あるいは又、相馬大作、大作神社というような（ものがあります）。我々が、人づくりの1つの拠点として誇りに思ったり、それらをつかってまちづくり、あるいは交流といったような他からお客さんをお呼べるのではないかとということで、大きい目標を立てながらこれから進めていかなければならないと思っております。

石切所等につきましても、区画整理事業等がようやく東側にきたわけでございますが、北桜高校が昨年4月1日に（開校し、）名前は変わりましたが工業科の2つの学科を残すことができました。子どもの学びの場を確保することが目的でありまして、名前は二の次.. といえば怒られますけれども、そこは一戸と工業と一緒にしながら。その一角に支援学校もできるということで。1つは、交通の便を活かしたような、他からも来られるような便利なところに工業高校と支援学校ができたということで。東側の方には今、個人的な構想ですけども知事が産業技術短期大学というようなお話もされていますので、それらを東側のところに持ってくることであれば、人口減少が進んでいる中でも停車場線の川原橋に向かってひとつの賑わいができるのかなと思っております。

いずれ、まちはどんどん動いてまいりますし、人口はどんどん減っていく。それに対して我々はどういう風にそれぞれの部署で対応していくかということが大きな課題でございます。

それこそ、学校等の統合等につきましても、繰り返しやっつけていかなければ。このままでいくと、複式学級や少人数学級が見込まれ、市内のほとんどの学校がクラス替えの

できない学校になってしまうということを教育委員会の方でも考えて、先を見ているようですので。地域の1つのシンボルがなくなっていくわけですが、その跡地の活用もまた大きな課題であると思っております。

御返地中学校につきましても、皆様のご協力によりまして、福岡中と統合したわけですが、その跡地に小西美術工藝社に入っただいて、漆の拠点を築いていただいて、若い方々のお力もありまして今、浄法寺漆は量を集めて保っているような状況でございますので、これから予想される、例えば言えば怒られるかもしれませんが、仁左平小とか西小学校あるいは、石切所小、金田一小といったところについてもどんどん人口が減っていけば、10年先20年先を見据えた計画が必要となっていくという風に思っております。

その意味におきましても福岡高校と申しますのは、小中高と、ここの二戸の中で、九戸城があって、人材育成があって、ここのところにおそらく学校を集めたような形になっていると思っておりますので、福岡高校の全面改築を県要望の中の一つの柱に据えながら、要望していくつもりでございます。先般の高校再編の会議の際にも、そのことについて1つだけ申し上げましたし、今度の7月7日の知事との要望項目でも、1番先にあげていくつもりでございます。

福岡高校に進学してもらい、人材育成を図っていくというのが、市にとっても又、二戸広域の中でも地域の元気につながるのではと思っておりますので、それこそ鳥瞰的にまちを見ながら、まちづくりを進めていかなければならないという風に考えているところでございます。

今日の議題は、二戸市立小・中学校通学区域調整員会の設置ということでございます。

福岡高校もグローバルというようなのをやっておりますが、時代の流れの中で、やはり大きく見据えながら小さいところも守っていかなければならない。ただ、学校等につきましては子どもが第一でございますので、将来的にもそれで飯を食べていたり、人材育成していくためにはどういう学校が望ましいものなのかは、この場ですとか、教育委員の皆様からお話をいただければなと思っておりますので、どうぞご忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

今日は、まとめるとかどうこうすることは全く考えておりません。どうぞよろしくお願いいたします。

(立花教育部長)

ありがとうございます。

続きまして、加藤教育長から、あいさつをお願いいたします。

(加藤教育長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

市長、教育委員の皆様が一堂に会して行う会議の唯一の場でございます。教育行政のさらなる充実を目指しまして、二戸市の教育事業がますますよくなるように、皆様方から忌憚のないご意見をいただければありがたいと思っていますところでございます。今日はどうぞ思っていることをお話しいただければと思っております。よろしく願いいたします。

3 議 題

(立花教育部長)

続いて議題に入りたいと思います。

ここからは、藤原市長に議長をお願いいたします。

(藤原市長)

それでは、議事に入りたいと思います。

「二戸市立小・中学校通学区域調整委員会の設置について」事務局より説明願います。

(立花教育部長)

はじめに私から、今回の議題につきまして概要を説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

引き続き、教育企画課長から資料に沿って説明いたします。

(長畑教育企画課長)

それでは、資料1ページをお願いいたします。

市内小・中学校の現状についてでございます。

(中略)

資料の説明につきましては、以上でございます。

(藤原市長)

説明が終わりました。

説明のあったとおり、21名の方々によりまして、調整委員会を設置したいというのが趣旨でございます。

よくいわれるのは、地域に学校がなくなればさみしくなる、廃れるとか、そういうことは行政が担当すべきことだと思いますし、子どもたちのことをどうすればいいのかというのは教育委員会の役目ではないかなという風に思っておりました。

運動会が終われば、「子供たちが元気になりましたね」など先生方と話しをすることもありますが、季節ごとにて変わっていく中で、小学校は6年間、中学校は3年間繰り返して上の方へいくわけですが、できることであれば高校も地元の高校に入って

いただきながら地域を盛り上げていただきたい、というのが地域づくりを担当する我々行政の仕事でございますが、皆さんの方は（委員会を）設置しながら人口が減っていく中で学校をどうもっていったらいいのか、といった視点でご意見いただければと思います。

（加藤教育長）

事務局の方から子どもの人数について状況説明がありましたけれども、学校を考えたときに小さな学校には小さな学校なりのメリットとデメリットがあり、大きな学校には大きな学校のメリットやデメリットもあるということだと思えます。

小規模校の良さもあるわけですが、人数が少なくなればなるほど、メリットよりデメリットがクローズアップされていくんだらうなと思えます。大きな学校も同じだと思ひまして、大きくなればなるほど、デメリットの方がクローズアップされるわけですが、先ほどの事務局の説明によると、今後大きくなっていくという部分は難しいのかなと感じているところがございますけれども、いずれデメリットを少しでも軽減して、メリットの方がクローズアップされるような子どもたちの学びの環境の場というものを設置していくのが、私たちの役目なのかなと思うところがございます、そういう意味ではこの度の学区調整委員会の設置について、この委員会のご意見を頂戴するのは非常に大事な機会だと思っております。非常に大事にしていきたい委員会設置だなど、まずは感じるところであります。

（藤原市長）

ありがとうございます。他にどうぞ

（菅原教育委員）

今、説明いただいて、現状とそれから数字を目の前にすると本当にこんなに少なくなっていくんだなと切々と感じておりました。令和 13 年度になると、90 人を割るし今まであんなに大学校だと思っていた福岡小学校、福岡中学校もこんなに学級数が減って、令和 13 年度というのは遠いようで、もう喫緊にせまっているような状況でもあるので、やはり今、教育長もおっしゃいましたが調整委員会というのを設置して、地域の宝ではありますが、学校をどうやっていくかということについて諮問して、地域の方々からのご意見をたくさん頂戴して、そしてこの二戸市も避けては通れぬ現状になってきていると思いますので、そこに向かっていくというのは私は異議がないなと思ひました。

少人数化のメリットとして、細やかに対応できるという点はあると思ひますが、11 人規模とかになってきて、クラスに 1 人か 2 人しかいないという状況になってきますと、やりたい教育活動も制限されてきますし、あとは教員の数の少なくなってくるというデメリットも取り上げられていくと思うので、そこについては考えていく時期なのではないかなと思ひました。

（藤原市長）

ありがとうございます。他にどうぞありましたら

高校再編もそうでした。どういう形で納めていけばいいのか、本当悩んだところがございます。

今生徒たちに何が必要なのかということになりますと、医療費は今年度から小中高とすべて無料にしました。給食費等については、今、国の方で12月に方針を出しましたので無料化に向けて進めることとなると思います。国が1/2、あと県と市の方で1/4出すように言ってくるのか、国が1/4しか出さないと言ってくるのか、そのあたりは分かりませんが、子どもについては、社会全体の中で医療費や教育費がかからないようにしながら、地域が育てていくということになっていくと思います。

いずれ、避けては通れないことになっていくと思いますけれども、皆さんの方からもご意見あればお願いします。

(藤原市長)

よろしいですか。

それでは、学区調整委員会は設置するというところでよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

4 閉 会

(立花教育部長)

ありがとうございました。

これをもちまして令和7年度第1回二戸市総合教育会議を閉会いたします。

大変ありがとうございました。